

香川

“特区指定”握る鍵

広がる遠隔医療 ④

香川の挑戦

「香川の強みや特長を、デアが募集された昨秋、生かせるものに絞って指 県は観光分野を含め計3 定申請を行う必要があ 件提案した。一方、全国 から集まった提案は計3

先月14日の県議会代表 58件だったが、指定は 質問。総合特区への取り 20件程度との報道が流れ 組みを尋ねられた浜田恵 た。想定以上の高い競争 造知事は「かがわ遠隔医 倍率に、県に緊張が走っ 療ネットワーク」(K- 事)案に絞った。 た。 M I X) を利用する「か 香川での遠隔医療の取 り組みは、30年近く前、

実は、総合特区のアイ 香川大瀬戸内圏研究セン



飯原なおみ・徳島文理大教授(左端)から電子処方せん ネットワークの説明を受けるタイの政府関係者と医療関係者

三木町池戸の香川大医学部で

生涯型電子カルテへの発展期待

ターの原量宏・特任教授 にさかのぼる。

原特任教授は、80年4 月、香川医大(現香川大 医学部)に助教として赴任。 妊婦が自宅から胎児心拍 数などを病院に伝送でき る小型の胎児心拍検出装 置を開発。周産期の電子 カルテもネットワーク化 し、他の医療機関も、参 照できるようにした。

近では、県内の産学官が、 △病院と地域の調剤薬局 を結ぶ「電子処方せんネ ットワーク」▽遠隔地の 医師が、検査情報などを 画面に映し、患者とテレ ビ電話で会話できる「電 子カルテ機能統合型テレ ビ会議システム」(ドク ターコム)——などの開 発に取り組む。

自力での更新には、利 用する医療機関拡大によ る収入増が欠かせないだ けに、特区指定へ寄せる 関係者の期待は熱い。指 定による規制緩和で、こ れまで以上に活用範囲が 広がれば、K-MIXな どの各医療ネットワーク へ参加を望む医療機関も 増えるとの読みだ。

当時、開業医もCT(コ ンピューター断層撮影) やMRI(磁気共鳴画像 化装置)を導入しつつあ った。「県医師会の医師 にアンケートをとると、 (CTやMRIの)画像 を送受信したいという回 答が多かった」と原特任 教授は振り返る。地域医 師のニーズに答え、03年 6月、データセンターの サーバーを介して医療機 関同士が画像や検査デー タをやり取りできる全国 初の全体的医療ネットワ ークとして、運用を始め た。

K-MIXを基に、関 連技術の開発も進む。最 年に始まった際、27機関

支払う利用料で賄われて いるが、「単年度の収支 は、かろうじて黒字です」と、同会の小西久典理事。 昨年度、県が地域医療再 生基金(約2200万円) で、サーバーを更新した が、何年か先に予想され る次回更新は、採算ライ ンすれすれの現状では、 見通しが立たない。